

公園は教材の宝庫 ～奥レクを使おう！～

県立奥只見レクリエーション都市公園

指定管理者むつみグループ 藤塚 治 義

1 はじめに

新潟県立奥只見レクリエーション都市公園（以下、「奥レク」という。）は、魚沼市に5地域、南魚沼市に1地域の6地域からなっている。「レクリエーション都市」は広域レクリエーション需要に応えるという目的で設置される都市公園であり、原則として高速道路や新幹線等に接続しやすいところに設けられている。



奥レク各地域の公園はその地域の文化や自然を来園者に伝える役割をもっている。そのため各々の公園には地元の自然環境や動植物を観察できる箇所や施設がある。

本稿は奥レクが魚沼市の理科教育や総合学習で活用されることを期待し、奥レクで観察できる生物とその生育生息環境のいくつかを紹介するものである（表1）。

表1 奥レクの各公園と自然環境保全に関する施設・観察できる主な生物

公園名	自然環境保全に関する施設 / 特徴的な生物
響きの森公園 (小出地域)	泉沢里山生態園 ブナ林：ブナ、ユキツバキ、日本海要素の植物多数。 湿地・池：(植物) ミクリ属、ショウブ、ミズバショウ (動物) オオルリボシヤンマ、ギンヤンマ、キイトトンボ、エゾイトトンボ、ガムシ、ヘイケボタル、 キタノメダカ 、 モリアオガエル 、 トノサマガエル 、ツチガエル、ヤマアカガエル、 アカハライモリ 、 オオタニシ 水路：(動物) オニヤンマ、ゲンジボタル、カワニナ
大湯公園 (大湯地域)	(植物) コシノカンアオイ 、 ユキグニカンアオイ 、オウレン (動物) ギフチョウ 、ヘイケボタル、ミヤマクワガタ、
須原公園 (須原地域)	上ノ山自然園 (植物) ミツガシワ 、 ジュンサイ 、 イヌタヌキモ 、 サンショウモ (動物) キタノメダカ 、 オオタニシ 、 マルタニシ 、カワニナ 天神川砂防ダム下流 ： ゲンジボタル 、 カジカガエル
浅草岳公園 (浅草岳地域)	(植物) ブナ、ミズナラ、キハダ、ギンリョウソウ、ヤドリギ (動物) トウホクサンショウウオ 、 アズマヒキガエル 、 モリアオガエル 、ヤマアカガエル、タゴガエル、ツチガエル、 カモシカ 、ニホンザル
根小屋 花と緑と雪の里 (道光・根小屋地域) 【芝桜の公園】	トンボ池 (植物) サンショウモ 、ミソハギ、ミズオトギリ (動物) ヘイケボタル、オオルリボシヤンマ、ギンヤンマ、ハッチョウトンボ、キイトトンボ、アオイトトンボ、モノサシトンボ、ショウジョウトンボ、 クロサンショウウオ 、 トウホクサンショウウオ 、 アカハライモリ 、 トノサマガエル 、ツチガエル、ヤマアカガエル、 モリアオガエル クルミ川 ： ゲンジボタル
八色の森公園 (浦佐地域) 南魚沼市	(植物) ミクリ属 、 ヤガミスゲ (動物) キタノメダカ 、 トノサマガエル 、アブラコウモリ

※ 鳥類なども多数みられるが教材として観察することは難しいと思われるので省略。

※ 太字は貴重種。

2 公園で観察できる生物/環境

(1) 植物

a ブナ林・スギ植林

奥レクでは浅草岳公園に整備されたブナ林がある。また、響きの森公園の里山エリアから林道を上がった箇所には巨木を含む発達したブナ林（干溝のブナ林）がある。浅草岳公園のブナ林は林床が刈り払われほぼブナだけの森となっている。春には葉緑体を持たない寄生植物のギンリョウソウが多数みられる。干溝のブナ林は低木層にユキツバキやハイイヌガヤなどが日本海要素の植物が多数生育している。また、このブナ林は亜高木層を欠く日本海側のブナ林の特徴を示している。

スギ植林は公園内に限らず県内では広くみられるが、同じスギの植林であっても比較して観察すると手入れの状況によって林内の明るさや林床の植物の生育が異なることがわかる。

b 湿地・池の植物

湿地や池の植生は共通しているものが多いため、一箇所の公園の観察によって得られた知見が他の公園や自然の湖沼などにも応用できることが多い。

奥レクの各公園には湿地・池がある。特に観察に適した湿地は、根小屋花と緑と雪の里（以下、「根小屋公園」とする）のトンボ池と須原公園の上ノ山自然園の池である。

根小屋公園では、ミソハギ、ミズオトギリ、ヌマトラノオ、サンカクイ、マツバイ、ヘラオモダカ、カサスゲ、ヒルムシロ、サンショウモ、イチョウウキゴケ、ミクリ属などが水深や環境の違いに応じて観察できる。

須原公園では、ミツガシワ、ジュンサイ、イヌタヌキモ、ノハナショウブ、サンショウモなどが観察できる。かつてはサギソウ、トキソウ、カキラン等のランやヒメシャガもあったが違法採取により無くなっている。倫理的な教材としてほしい。

c 貴重な植物（絶滅危惧種など）

生態系の中で重要でない種はないというのが原則ではあるが、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）やそれに準ずるもの（準絶滅危惧種）は貴重性が高いと考えられる（以下、貴重種とする）。奥レクでは貴重種を多数みることができる。貴重種の基準は環境省や新潟県、市町村がレッドデータまたはレッドリストとして選定したものが一般的だが、選定条件は様々であり、適宜更新されるため常に最新の情報を得るように務めることが必要である。

表2 奥レクの主な貴重種（植物）

種名	環境省	新潟県	備考
サンショウモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	水生のシダ植物
イヌタヌキモ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	食虫植物（プランクトンを捕食）
ミクリ属*	準絶滅危惧	準絶滅危惧	ミクリ、ナガエミクリのランク ※ 種によってランクが違う
ミツガシワ	—	絶滅危惧Ⅱ類	長花柱花と短花柱花がある
ジュンサイ	—	絶滅危惧Ⅱ類	食用になる

(2) 動物

a 哺乳類

奥レクに生息する哺乳類は多いが日中に安全に観察できるものは少ないため、教材利用は難しいと思われる。主な種名の紹介に留める。

アズマモグラ、アブラコウモリ、ニホンザル、トウホクノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、ハツカネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、ニホンアナグマ、ニホンカモシカ

b 両生類・爬虫類

両生類は陸域と水域の両方に生息環境が必要なことや、環境変化の影響を受けやすいことなどから多くの種が貴重種となっている。奥レクでは多くの両生類が見られる。特に春先は多くの両生類の卵塊が見られることから、両生類を通じて公園およびその周辺とのつながりを学ぶことができる。

表3 奥レクの主な両生類（春に卵塊を観察しやすいもの）

種名 / 公園	産卵場所	幼生の生息環境	成体の生育環境
トウホクサンショウウオ 根・小・浅	水路 池（やや流れのある所）	池（流れの緩やかな所）	林床（地面の下）
クロサンショウウオ 根・小・須・大・浅	池	池（流れの緩やかな所）	林床（地面の下）
アズマヒキガエル 浅	池（浅い所）	池（流れの緩やかな所）	林床
ヤマアカガエル 根・小・須・大・浅・浦	池（浅い所）・湿地	池（流れの緩やかな所）	林床
モリアオガエル 根・小・須・大・浅	水面の上の枝 岸の植物の上	池（流れの緩やかな所）	広葉樹林（樹上）

※ 根：根小屋地域 小：小出地域 須：須原地域 大：大湯地域 浅：浅草岳地域 浦：浦佐地域

奥レクで観察できる両生類は上記以外では以下のものが見られる。

ハコネサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンアマガエル、タゴガエル、
トノサマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル

観察できる爬虫類はそれほど多くないが魚沼地域の里山で観察できる種類はほぼ見られる。

（トカゲ類）ニホントカゲ、ニホンカナヘビ

（ヘビ類）シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、
ニホンマムシ

c 昆虫類

県立公園内では採集行為が原則禁止であるためきちんとした調査が行われたことがなく詳細は不明である。しかし、奥レクに生息する昆虫類は非常に多く、それらは自然観察の対象となっている。特に根小屋においては「トンボ池」の名称で水深の異なる3つの池が整備されており、2002年から2004年にかけて中島稔氏によるトンボ類の調査が行われ、「魚沼・小千谷の自然と理科教育」（2004年）に紹介されている。

d その他の動物

前述の動物以外にも多くの動物が生息している。その中で教材として利用できそうなものをいくつか紹介する。

表4 奥レクの主な動物（上記以外）

種名	観察できる公園	備考
魚類：キタノメダカ、ドジョウ	根・小・須・浦	RDB記載種
節足動物：アメリカザリガニ	根・小	外来種
軟体動物：タニシ類、カワニナ	根・小・大・須・浅・浦	RDB記載種・水棲巻き貝
軟体動物：ヒダリマキマイマイ	根・小・大・須・浅・浦	陸棲巻き貝

※ 根：根小屋地域 小：小出地域 須：須原地域 大：大湯地域 浅：浅草岳地域 浦：浦佐地域

3 おわりに

奥レクは都市公園法に基づき整備された都市公園であるが、浦佐地域以外は里山に隣接して設置された生物相の豊かな公園である。いずれの公園においても魚沼地域を代表する多くの動植物を観察することができる。近年、児童生徒が野生の生物に接する機会が少ないという報道等に接することが多いが、生物教材の宝庫である奥レクを理科教育・環境教育に活用していただき、野生生物や自然環境に親しんでいただければ公園を管理するものとして大変に喜ばしいことである。

付記 公園利用の注意

奥レク公園は県立都市公園であり、都市公園法、新潟県都市公園条例に基づき運営されている。現在は「むつみグループ」が指定管理者として新潟県より委託を請けて管理運営を行っている（管理期間2018年から2023年まで）。

理科や総合学習の一環として、公園を利用する際には、公園利用届の提出が必要であり、様式は奥レクのホームページより入手できる。条例により公園内での動植物の採取は禁止されているが、教育・研究としての実施であれば県への申請等で許可を得ることも可能である。県民の財産である奥レク公園を新潟県の未来を担う子どもたちのためにぜひ有効に利用してほしい。



新潟県立奥只見レクリエーション都市公園 <http://www.okureku.com/>

奥レク公園 facebook にて環境情報等 随時発信中！

